

どうして英単語の検定なのですか。

単語力は、お客様のその後の英語学習に大きなアドバンテージをもたらします。また、その学習の過程で以下のメリットがあります。



単語の習得が、次の単語の習得をより簡単にします。

単語力がつくと、文法のルールに気づきやすくなります。

文章が作りやすくなり、会話や英作文が上達しやすくなります。

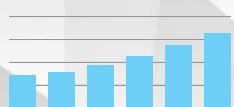
英語を読む力ー読解力が向上します。

単語学習に焦点を当てることで、成果が感じやすくなり、学習意欲が向上します。

英単語学習に焦点を当てることにより、初めて英語を学ぶお子様取り組みやすいばかりか、本格的な英語学習をスタートさせた際にアドバンテージを得ることが可能となります。また、その取り組みやすさから、無理なく、成果を感じながら学習を進めていくことが可能なのです。

単語力の有無による学習効果のイメージ

通常の英語学習では…



学習量に比例して力が伸びていきます。

単語力があると…



単語力が英語学習全体の推進力となります。



各級をクリアするごとに認定証を授与

お客様の学習意欲向上のため、検定各級を合格すると認定証が発行されます。



実施要項

申込資格

団体での申し込みが必要です。検定実施団体（当案内配布の指定団体）までお問い合わせください。

年齢、性別、学歴、国籍等を問わず、誰でも受検することができます。

対象学年・出題内容

小学低学年～高学年、中学1年生までを主な対象としています。

また、4SET-Vocabularyは25級～1級までで、中学1年生、中学2年生レベルの英単語を学習します。

試験会場・受検日

試験会場は、検定実施団体（当案内配布の指定団体）となります。

また、受検日は各会場により異なります。各試験会場へお問い合わせください。

受検料とそのお支払い

各級 ¥1,500（税別）*1

*1 ただし検定実施団体にて別途料金が設定される場合には、検定実施団体が指定する料金が適用されるものとします。

また、お支払は各検定実施団体の規定に従うものとします。

よくあるご質問

各級で出題範囲はありますか。また、どのような対策が必要ですか。

詳細な各級の出題範囲は4 SETに対応した教材をご利用の団体様で公開されています。25級～1級全体では、中学1年生から中学2年生で学習する英単語が出題されます。また、4 SETに対応した教材をご利用の団体様では具体的な検定対策ができます。

英単語レベルから
「読む」「書く」「聞く」「話す」の
4つのスキルで英語を身に付ける

使える英語はここから始まるー

4SET Vocabulary



英語教育改革に対応した検定に向けて

昨今、文部科学省の発表やマスコミで広く報道されているように、教育界においては2020年の英語教育改革に向けた取り組みが急速に進んでいます。

この英語教育改革には2つの大きなポイントがあります。

1つは4技能による英語力の習得です。これまで以上に「話す」「書く」などの実用的な力が求められるようになりました。すでに、いくつかの英語力を測る検定試験でも4技能での測定を取り入れることが発表されています。

もう1つは学習量の大幅な増加です。その最たるものとして、学習する語彙量（単語量）の増加です。2012年にはすでに中学校で学習する語彙量は300語増え、3年間で1200語になりましたが、今後さらに増加させていく動きも見られます。

こうした英語教育の転換期に、お様が英語学習に対して「英語が得意!」「英語が好き!」このような前向きな姿勢で英語に取り組むことができる、そのような仕組みができないか、そういった思いで、この新しい検定の開発に取り組みました。

4 SET（4技能英単語検定試験）が多くのお子様の学習意欲を引き出し、中・高・大、そして社会人へと続く英語学習の大きなはじめの一歩になることを願ってやみません。

4 SET（フォーセット）とは

英単語を「読む」「聞く」「書く」「話す」という4技能全ての観点でその力を測定する英単語力検定試験です。

4 SETにはお子様の学習意欲や学習に対する前向きな態度を引き出すための様々な工夫が組み込まれています。その最たるものは、詳細なスキルレベルの設定です。例えば、初めのうちは「単語を文字として認識できるか」「正しいスペリングと同じ文字列を選択できるか」のレベルからスタートし、後半になったら「文字を自ら書き出せるか」「抽象的な言葉を英語に置き換えられるか」など、細かな段階を設けて測っていきます。こうした工夫により、お子様は新しい単語にどんどん触れながら、なおかつ知らず知らずのうちに、高いスキルを身に付けることにチャレンジしていくことができるのです。

つまり4 SETはお子様の言語発達の過程を考慮した科学的なメソッドによる検定試験なのです。



4技能英単語検定（4 SET: Four Skills English Vocabulary Testing Authority）のこのロゴは、インプットの「読む」「聞く」とそれを土台とした「書く」「話す」というアウトプットへの連結をイメージし、この連結が実用的でバランスの取れたスキルの習得であること、そしてその実現を目指すことを表現しています。

科学的で緻密な検定システム

スキル領域	シリーズ ▶ 級 ▶	Starter				Basic				Intermediate		
		25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
意味と理解 スキル詳細	イラストに合う適切な英語を選ぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	英語と日本語を一致させる			○	○	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
	グループの中から、種類の違う英語を選ぶ								○	○	▲	▲
	同じ意味の英語をグループ化する											
	与えられた定義から英語を選ぶ											

スキル領域…「意味と理解」のほか「語法」「音声・スペル」の領域がある。
スキル詳細…スキル領域ごとに異なる定義がある。

シリーズ…Starter、Basic、Intermediate、Advanced、Master、Expertを用意。

級…級は25級～1級

全ての級の学習範囲（単語数）は1000語以上。

○▲などの記号…○は「読む」などの理解（インプット）型問題、▲は○に加えて一部「書く」などのアウトプット型問題を含む。上記表中にはないが、●は「書く」を中心としたアウトプット型問題。このように段階的に求められるスキルの難易度が高くなるよう設定されている。

検定の構成

RW Section

Reading-Writingセクションでは従来のテストのように「文字を認識したり、読んだりする力」いわゆるリーディング力と「文字として英語を書き出す力」いわゆるライティング力を測定します。

級が上がるにつれ、本格的な読み書きができる力を身につけていきます。



※下記は開発時の資料です。実際のテストとは一部異なる場合がございます。予めご了承ください。



LS Section

Listening-Speakingセクションでは「耳から英語を聞いて認識できる、意味を理解できる力」いわゆるリスニング力と「聞いた英語、あるいは見た英語を口に出して発音できる力」いわゆるスピーキング力を測定します。級が上がる学習した英単語を文章として表現する場合もあります。

Listening-Speakingセクションでは MyETというスピーキング判定ソフトを使用し、音声の力を判定していきます。

RW SectionとLS Sectionを合計した得点で 合格/不合格を判定します。